

ノート
カバン
ソロバン
運動具

マル柴田書店
平町四丁目
電話二三四番

園児募集

一、定員 六十名
一、資格 五歳より學齡まで
一、新學期開始
四月五日午前十時

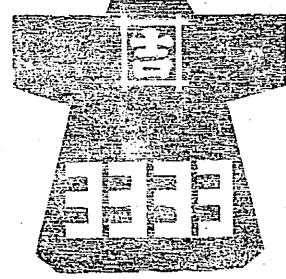
平信榮幼稚園
平町材木町

珊瑚陳列會
三月廿日より
廿四日迄
平四丁目
ツルヤ

産婆、看護婦生徒募集

修業年限 産婆、看護婦兩科ヲ通ジテ一ケ年
創立卅年紀念トシテ教室増築、産院前設、一般婦產婦入院ノ需メニ應ジ且生徒ヲシテ臨床看護セシム
願書提出 四月八日迄
寄宿、自炊ノ便アリ

石城 産婆 學校
看護婦
電話三五七番



手拭、消防被服 専染所
印半天、風呂敷
小店員入用
吉田屋染工場
電話五五八番

紫色の南國的な
薫りする
葡萄氷
軽い葡萄酒の味がする
本當、美味しうお菓子
ゼヒ御試食下さい
百々五十銭
ヤトモツマ
番四一二電

あん餅で
東北一...
鐵道省御用舖
花澤四良司菓子店

第二病室
高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新湯醫學士 赤羽 清
藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町電話五一三番

常新新聞
定部金武銭
一ヶ月廿五銭
三ヶ月七十五銭
半年一圓二角
一年一圓八角
廣告五號十二行
五號一行
刊休日曜大祭
祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長崎町三五
發行所 常新新聞社
電話六三〇番

山崎清三君の勇氣
植竹源太郎
今朝、新築の山崎合名會社に清三君を訪ふ。陸軍記念式を終へて上京し、横須賀にも舊友を訪ひ、昨夜歸平したるなりとて多忙らしき中にも閑談中一本を示さる披き見れば、實業讀本と題せる新版の「小冊子」なり、著者武藤山治氏とは如何なる人なりやも言へば、鐘紡會社社長にて、關西の澁澤子爵とも謂つべき人なり、此の事實は我が店員一同に贈

與せるが爲東京より携へたるなりとて、予にも一本を惠與せらる、予は他へ寄贈すべき有益の新版書を求めつゝある際ならば、尙ほ別に二、三部の譲り受けを請ひたれど、餘分は無じとて直ちに電話にて平町の書店を問合せ、柴田書店に二部の持合せあることを知りて予に購入の便宜を與へられたり。歸宅後通讀したるに君の言はるゝ如く誠に時節柄何人にも購讀を請ふべき良書なるを知り得たると同時に、特に金持ちの諸氏には必讀の書なれば予等の如き貧乏人は平町の店員とも相談し、醸金して數十部を

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進)

種々體器
寒暖計
電四〇番
關内藥局

磐城共濟病院
院長醫學博士 助川喜四郎
副院長醫學博士 藤井秀旭
醫學士 竹内俊一
醫學士 押川公介
醫學士 小池徳造
醫學士 近藤潤平
醫學博士 河合健吉
耳鼻咽喉科醫學博士 松本本松
醫學士 澤口清治
藥劑士 吉本孝平
顧問醫學博士 瀧潤家

代價拾錢
藤田家傳
藤田榮助
平町田町電話三三六番

吳服類は總べて
安く良くは龜の標語です
必ず御満足して戴ける確信です
最近の當店へゼヒお運びを願ひます
中野吳服店
平町三丁目(電話六七番)

公債
債券
賣買
大正生命保險株式會社
平代理店
多田井質店
平町大工町

貸
仲間町 商店向 十圓
櫻町 勤人向 十圓
七圓
柳町 勤人向 八圓
平錢
保
神戶火災 平代理店
東洋火災 平代理店
共保生命警東代理店
御用は電話三二番へ
加藤營業所
平白銀町十五番地
振替口座仙臺六二四三番
電話三二番二五五番

小店員募集
◇小店員數名至急入用家族的優遇ス詳細面談
平町一丁目
和久井屋
電話四〇六番

新入學のつ持をんさ子わ 讀者諸君の御家庭に、この四月から尋常一年へ入學なさる坊ちゃんか嬢さんかお祝ひの微意を表する爲めに四月分の本紙を無代で進呈致します故ごうそ本月末に配達係が集金に參上致しました際御遠慮なくお知らせを願ひます

野菜を行商して 磐城高女を卒業

妹思ひのミツ子さん 縣廳から表彰さる

別項磐城高等女學校卒業生の内、縣廳から善行を表彰される萩原ミツ子さんは石城郡平窪村大字下平窪萩原丑之助氏の長女である、ミツ子さんは自分も女學校に入學して女一通りの勉強をすゝめ、つたとすれば自分の妹ヨシ子さんも矢張り一所に學ばせ度いと云ふ希望から父母に打ち掛け種々相談を掛け見たのであつたがミツ子さんの家は左程豊かな家ではないので容易に許されなかつた、其處で自分達二人の學費は必らず自分の腕に依つて稼ぎ出す事を契つた爲め

煙草の栽培 勿來校の試作 結果頗る優良

石城郡南菊多方は近來附近各炭礦の衰滅凋落によつて各方面を通じ不況の絶頂に在る爲め今後に於ける農村經濟の樹立は須らく實質にして而も恒久性を有する農業方面の改善に俟たねばならぬといふ、見解の下に地方二三の有志は過般來夫々調査研究の結果同地方の地質が葉煙草の栽培に最も適應するものなることを發見さきに勿來小學校の試作として之が栽培を試みた處五畝歩の地域にて八十六圓

兩親も 此熱烈な健氣な心持ちに動かされて遂に其事を許すに至つた、そして二人の姉妹は同時に磐城高等女學校の入學試験に應じ無事合格したのであつたが夫れ以來ミツ子さんは朝に夕に學業の餘暇を惜しみ福島炭礦の方面に野菜の行商をして冷たい雪の朝も

女高城磐 名氏生業卒

い近は日のれ晴

縣立磐城高等女學校にては既記の如く來る廿二日午前十時より卒業式を舉行する筈であるが、優良者其他及び卒業生左記の如くである

- 善行表彰者 平窪村萩原ミツ子
- 四ヶ年皆勤者 遠藤ヤエ岡田良子、賀澤ハル、中島初子
- 一ヶ年皆勤者 赤津サダ阿部榮子、阿部貞子、阿部ひで、柏原サダ、加藤ヨミ、小松翠、佐藤キミヨ、鹽澤ツヨ、高萩デン
- 卒業生 (五十音順) 青木智恵子、阿部榮子、安藤喬子、新井マサ子、

- 淺見愛子、阿部貞子、阿部ひで子、新田目竹子、赤津サダ、青木節子、飯島美代、石井布子、井筒しげ、石山佐久、江崎節子、江尻モト、遠藤ヤエ、圓通キミ、越智ハナ、小野マツエ、大川ヨシ子、大竹トヨ、岡田良子、大高喜代壽、小川ミヤ子、小川フミ、萩原敏子、小野ハルエ、賀澤春子、加藤フミ、河田ハルエ、賀澤シゲノ、賀澤ヤイ、柏原サタ、加藤カネ、加藤木村ノブ、木村壽恵、草野政子、黒澤シン、櫛田トキ、熊谷隆子、上坂武子、小井戸ウタ、小松千代、木幡小トリ、小峯春子、小西キヨ、小林綾子、小林トミ子、小松翠、坂本壽子、齋藤ヤイ子、坂本三枝、佐川マサ、鷺フ

- ク、櫻井恭子、佐藤キヨ子、佐藤トキ、坂本ミツエ、佐藤キミ代、佐藤ミツコ、佐藤緑、志賀ハナ、鹽崎ツヨ、白土リエ、白土眞琴、鈴木常子、鈴木ミツイ、鈴木ヒデ、鈴木アイ、須田ノブ、田邊芳子、高木生子、高木キミ、高萩デン、高橋マサヨ、高木スギ子、瀧トク、田中俊、高崎愛子、高崎竹子、丹野ユキ子、高階マサ、高萩カツ、瀧ツルヨ、武内梅子、高原シヅ子、津葉ミチ子、圓谷清子、津田春子、富澤宮子、中島初子、永山竹子、中村アイ子、永井シツ、永山チエ、新妻マサノ、額賀佳子、野木ミエ、箱崎チヨ子、春木三枝、遠見壽萬子、萩原ミツ子、萩原ヨシ子、箱崎カメヨ、橋本二三子、長谷川孝子、廣

- 川あさ、古川千代子、古川キミヨ、堀江雪子、本多ヒテ、正木タツ、増井幸、松崎イシ、間宮雪子、松崎ハル、松本シゲ子、正木千代、松井薫、松本ヒデコ、水竹ムネ、三浦ひてこ、三井タケコ、三系トシ、門傳キミ、山名フシ、山野邊春子、柳内重世、山崎サツヨ、湯山秀コ、渡邊ミキ、若松良コ、渡邊ちとせ、山内弘コ、山内文コ、渡邊テルヨ、松本綾

△立町二 若松(一七) △新川町一六 市川(七)

即ち反當り百七十餘圓の收穫を見たのみならずその品質に於ても十數等に分類しある専賣局の標準等級第三等品の優良なるものトある

卒業児童 貯金の現在高

平町各小學校本年度卒業生は第一校二百五十名、高百十四名、第二校二百八十

五名、高百十三名であるが上級學校入學希望者は中學校へ九十九名、商業六十四名、その他三名、第二校が高女校百八名である児童の貯金高は十四年十二月の現在で第一校九百名で一萬九千七百八圓、第二校六百二十二名で一萬三千四百八十八圓合計千五百二十二名で三萬五十六圓に達してゐる

愛谷せき 國補助危し こう地課長上京 石城郡愛谷せき工事費は總額二十六萬五千圓の中國庫補助十三萬二千五百圓、地元負擔八萬五千圓、縣補助四萬八千五百圓にてけりがついたので十五年度からいよいよ工事に着手するはずであるが右國庫補助交付案が今朝議會で否決し去らんとする形勢なので穂坂耕地課長は大いに驚き急ぎ十九日上京したが目下出京中の

募集 文藝其他投稿を募集します

綠川工場移轉 平町 搔搥小路綠川喜三郎氏は舊警中坂中途に土地をとり工場及び住宅新築中の所此程家屋落成し移轉したが舊に倍じてノコギリ製造の業務を擴張し然も値段を勉強して顧客に報ゆる由である

世は永い冬眠から覺めて、春の庭園へと下り立つた苔なの、今朝見れば銀世界未だ未だ寒さは去り難い姿を見せて居る、そして櫻の枝先は、まだ堅くて黒いつつ 花が咲くだらう。待ち遠しい花の便り、せきたてに小名濱測候所へ電話で「いつ頃櫻は咲くでせう」と、とんでもない質問を放つと所長さん、せいしく、ならぬ口を、おもむろに開いて



家庭欄

毛皮類の保存法

シヨール、敷物等すべて毛皮類は保存法が悪いと毛がぬけて、再び使用ができなくなり、不用になつ

てしまふ時は一日二日天日に晒らし、ブラシで塵埃をすつかり拂つてから再び日光にあてます。そして毛皮の面に密接せぬやう新聞紙をあて、片端からくるくるとまき、シヨールのやうな小物はブリキの空罐等に入れ、蓋を密閉してパラフィンか蠟で封をしておきます

土用干は素より使用するまでは絶対に開封してはなりません、大きな敷物はブリキ張りの茶箱を用ひます。なほ敷物類はシヨール等よりすつと丁寧な塵埃を拂はねばなりません。そして毛皮一面にナフタリンか樟腦をなすりつけ其上新聞紙をあて、おきます

△四丁三三七 遠藤徳治氏二女ミネ